IAUD Newsletter Vol.15
2022.4
No. 1

IAUD Newsletter vol.15 第１号(2022 年４月号)目次

1. IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. UD 検定オンライン 第 25 回初級及び第 15 回中級開催のご案内・・・・・・・・・・11
3. IAUD 2022 年４月の予定・・12

革新的な UD 活動を国際的に表彰
IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介②

オンライン開催された「IAUD 国際デザイン賞 2021 プレゼンテーション/表彰式」大賞表彰授与の様子

IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介の第２回目は、大賞を受賞したフィレスダル・コムーン(ノルウェー)の「ハマレン・アクティビテイパーク」と、金賞を受賞した一般社団法人ビーンズ(日本)の「ソーシャルグッドロースターズ」です。

オンニ・エイクハウグ審査委員長(EIDD デザインフォーオール・ヨーロッパ理事)は「ハマレン・アクティビテイパーク」について、「最初から共創のプロセスを踏み、地域コミュニティや多様なユーザーグループなどと連携して開発を進めた優れた例。子供たちや高齢者、障害者などさまざまなニーズを満たし、幅広い活動を提供するインクルーシヴな公園。身体的・精神的にも自然がいかに大切であり、素晴らしい自然の景観に全ての人がアクセスできることの重要性を教えてくれる」と、高く評価しています。

また、「ソーシャルグッドロースターズ」についても、「多様性と包摂性のある雇用をスマートにサポートするために再構築された説得力のあるビジネスモデル。インクルーシヴな職場を提供し、スキルを磨くことができるソーシャルデザインプロジェクトの成功例。多様な能力を持つ人々の可能性について、より深い理解を促進する」と、高く評価しました。

今号の IAUD Newsletter では、「ハマレン・アクティビテイパーク」の取り組みをプロジェクトを担当したコンサルティング会社ファウンのモニカ・ソリスト氏に、「ソーシャルグッドロースターズ」の取り組みをビーンズの平井 舞子氏に紹介していただきます。
※IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞結果はこちらをご覧ください。
※IAUD 国際デザイン賞 2021 審査講評はこちらをご覧ください。
※IAUD 国際デザイン賞 2021 表彰式開催報告と IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介①を掲載した Newsletter はこちらをご覧ください。

地域住民との連携でデザインされたインクルーシヴ公園

大賞：ハマレン・アクティビテイパーク
フィレスダル・コムーン（ノルウェー）

広大な自然の中にあるハマレン・アクティビティパークの遊歩道

誰でも簡単に自然へアクセスできる公園

「ハマレン・アクティビティパーク」は、ノルウェー南部ヴェストフォル・オ・テレマルク県フィレスダル・コムーン（以下、フィレスダル自治体）の広大な自然景観の中にある公園です。

誰でも簡単に無料で自然へアクセスできるよう、インクルーシヴデザインを導入しています。2017 年にオープン後、高齢者や障害者、家族連れや犬の散歩など、多くの地域住民に利用されており、住民の社交の場になっています。

さらに、ノルウェー全土からも多くの観光客が訪れる人気の観光名所となり、地域のカフェやレストラン、商店の事業拡大をもたらすなど、フィレスダルの産業発展にも重要な役割を担っています。

住民の健康と幸福につながるために

フィレスダル自治体

フィレスダル自治体は、面積が東京の半分の約1280km²、人口は約1400人という渓谷と淡水湖に囲まれた小さな自治体です。

この30年間で人口の減少と高齢化が進んでおり、自治体は子供連れの家族を多く受け入れる対策に取り組んできました。

また、ノルウェーの小さな自治体にはよくあることなのですが、広大で豊かな自然に囲まれていても多くの人にとってはアクセスしにくい環境でした。

そこで、子供連れ家族や高齢者、障害者など誰もが自然へ簡単にアクセスでき、自然の中で活動しやすいようにすることで、住民の健康と幸福につながるような公園を作ることになりました。

地域のコミュニティと共創プロセスを経て完成

地域の小学生との会合の様子

公園開発プロジェクトは、魅力的に地域開発をしたいフィレスダル自治体が主導となり、地方能力を強化したいノルウェー政府の協力を得ながら、コンサルタント会社ファウンを中心に進められました。

プロジェクトのキーワードは、「地域との連携」です。公園は多くの住民のニーズを満たすよう、幼稚園や学校、高齢者施設、住宅地に近い大きな森に設置することになりました。

そして、プロジェクトの初期段階から、地域の高齢者や子を持つ親世代、若者グループ、学校の生徒や教育関係者をはじめ、スポーツやリクリエーションの団体、地域企業や工事業者など多くの民間組織も会合に招聘して、彼ら全てのアイデアやニーズ、視点を取り入れました。

通常は都市の建築物などに導入されているインクルーシヴデザインを、フィレスダル自治体は壮大な自然の景観を全ての人が楽しめるよう導入したのです。

さらに、プロジェクトに対するコミュニティの深い関与により、住民は公園に愛着を持って利用しており、これまでに利用者のごみのポイ捨てや破壊行為はありません。

また、設置工事には地域の業者を採用し、公園のメンテナンスやごみ収拾は地域住民がヴォランティアで行っています。

UDを導入した遊歩道

遊歩道設置前のレスヴァトン湖岸

公園に指定された地域の一部は険しい山岳地帯になっており、アクセスしにくい環境でした。

住民への調査の結果、公園内にあるレスヴァトン湖岸沿いまで遊歩道を作ってほしい、という意見が多くありました。

そこで、フィレスダル自治体は約 1 年で民間企業とノルウェー政府から 400 万ノルウェークローネ(約 5,000 万円)の資金協力を得て、これまでアクセスできなかった山岳地帯と湖岸沿いに遊歩道を設置することにしました。デザインはノルウェーの有名な建築家に依頼し、工事は地域の建設業者に依頼しました。

そして、UD を取り入れた全長 2.4Km の美しい遊歩道が完成しました。急な岩壁を横切って設置された遊歩道のほとんどは硬い砂利道で、幅広にデザインされており、サイクリングや車椅子、ベビーカーでも湖まで到着可能です。高齢者施設からは、バイクタクシーを利用している人もいます。また、要所にはベンチやテラスを設けてあり、休憩やピクニックもできます。

また、湖の断崖には長さ約 200m の木製の橋を設置しています。ここからの絶景は素晴らしく、公園のハイライトになっています。

UD を導入した遊歩道と断崖に設置された木製の橋

学生のアイデアで完成した憩いの場

公園南端にある山頂からは、フィレスヴァトン湖の素晴らしい景色を眺めることができます。プロジェクトでは、若者がこの頂上までぜひ行きたくなるような施設を作りたいと考えました。

そこで、地域の学校の生徒を対象に、頂上を目指したくなるようなアイデアを募るコンテストを開催したところ、「パーティーや宿泊もできる小さな木造小屋のある憩いの場」が優勝しました。

そして、アイデアを提案した学生からの意見も取り入れながら、ノルウェーの建築家がデザインし、あらゆる年齢の人々のための憩いの場が完成しました。

憩いの場で休憩する訪問客

ここでは、誰もが無料の薪を使ってキャンプファイヤーをしながら、雄大な景色を楽しむことができます。

現在ではインスタ映えする場所として多くのインフルエンサーが訪れる人気スポットになっており、公園の効果的なマーケティングにもなっています。

少年グループが熱望した自転車トレイル

地域の少年グループからの強い要望により、公園内に BMX(バイシクルモトクロス)用の自転車トレイルを設置することになりました。

この計画には、フランスの自転車専門家が主導し、少年グループも参加して進められました。そして、公園の中心部に 11 もの障害物がある 1km の素晴らしい自転車トレイルが完成しました。

MXB を楽しむ少年→

地域の子どもたちが作成した案内標識

公園内の案内標識

公園内にはこの地域の動植物やフィレスダル自治体の歴史、おとぎ話などについて解説している 12 の案内標識が設置されています。

この標識のテーマは地域の幼稚園児童たちが決め、小学校 6 年生の生徒たちが情報取集やレイアウト、イラストを担当し、地域のデザイナーと協力して作成しました。

各標識には、作成に参加した生徒たちの顔写真を掲載しています。

誰でも無料で利用できる屋外キッチン

利用客で賑わう屋外キッチン

公園内には人々が出会い、一緒に楽しい時間を過ごせる空間を作ることが重要でした。

そこで、ベンチや暖炉、屋外キッチンがあり、誰でも快適に料理や休憩ができる場所を公園内に 3 か所設置しました。

最も人気のある場所は、公園の中心にある屋外キッチンです。学校や幼稚園にも近く、いつでも使えるようになっています。

キッチンには薪ストーブとプロパンコンロがあり、誰でも無料で利用できます。公園管理をしている地域の住民ヴォランティアが、全ての休憩所に十分な薪のストックがあるか常に確認しています。

高校生はトランポリンとジャングルジムを提案

トランポリンとジャングルジム

公園開発プロジェクトで最も困難だったことは、地域の高校生に参加してもらうことでした。彼らは近隣都市にある高校に早朝から通っており 1 日中自治体にいないので、会合へはなかなか参加できませんでした。

そこで、プロジェクトスタッフは朝食を用意して早朝のスクールバスに同乗し、高校生の意見や要望を聞くようにしました。そして、森林の中で楽しめるトランポリンやジャングルジムの提案があり、採用されました。

アンケートから幼児向け遊び場を設置

2017 年の開園後、利用者にアンケート調査をしたところ、最も人気のあるアトラクションは湖岸沿いの橋と自転車トレイルでした。また、親世代からは、公園に長い時間楽しく滞在できるような子ども向けのアトラクションを増やしてほしい、という意見が多くありました。

そこで、現在は幼児向けの遊び場も開発中で、地域のアーティストによる２つの遊具を設置します。1 つはすでに完成している高さ 3.5 メートルのスチールと木でできたクマの遊具で、子供たちは中を登ることができます。2022 年中には同じ素材のキツネも完成予定です。

クマの遊具→

「ハマレン・アクティビティパーク」成功の 3 要因

「ハマレン・アクティビティパーク」を成功に導いた 3 つの要因があります。1 つ目は、地域コミュニティの深い関与です。ユーザーとの対話と、ニーズや提案に答えることは最も重要です。現在、年間約 11000 人が利用する人気の観光地になっており、これは人口 1400 人もの自治体にとって、非常に多い人数です。

ハマレン・アクティビティパーク全景

２つ目は、あらゆる人々を対象にデザインしたことです。多くのニーズに応えることで、公園は高齢者や家族連れ、障害者、若者グループなど、屋外での活動を楽しみたいあらゆる人々に利用されています。

３つ目は、景観を美しくするようデザインしたことです。多くのデザイナーや専門家の協力を得ながら、木の素材を使用した美しく統一されたデザインになっています。

2023 年春に山頂への遊歩道が完成

2023 年春に完成予定の山頂までの遊歩道

「ハマレン・アクティビティパーク」は、2017 年にユニバーサルデザインイノベーションアワード（主催：ノルウェー・デザインアンドアーキテクチャセンター）を、また今回 IAUD 国際デザイン賞 2021 大賞を受賞しました。

受賞は公園に対する住民の献身と努力を評価していただいたもので、大変光栄です。

現在も、「ハマレン・アクティビティパーク」があらゆる人にとってアクセシブルで素晴らしい場所であるための改善を続けています。2023 年春には、誰もが簡単に山頂まで行けるよう、美しい木製の遊歩道が完成予定です。

ぜひ、ノルウェーのフィレスダル自治体と「ハマレン・アクティビティパーク」へお越しください。

※ハマレン アクティビテイパークの詳細はこちらをご覧ください。

障害者が自信と誇りをもって働き成長できるために

ソーシャルインクルージョン部門金賞:ソーシャルグッドロースターズ

一般社団法人ビーンズ(日本)

ロースタリーカフェ併設の福祉施設ソーシャルグッドロースターズ(千代田区神保町)

障害者が活躍するロースタリーカフェ

ソーシャルグッドロースターズは、障害のあるバリスタや焙煎士が活躍するロースタリーカフェ併設の福祉施設(就労継続支援 B 型※)です。コーヒーの仕事を通して、自立と自己実現を支援しています。

一杯のコーヒーが、障害者福祉と社会との接点となり、そこから生まれた利益は生産者や社会の支援に。そんな良いことの循環を生み出します。

※労継続支援 B 型:障害者総合支援法に基づく福祉サーヴィスのひとつで、一般企業への就職が不安、あるいは困難な障害者が、雇用契約を結ばないで軽作業などの就労訓練を行うことができる福祉サーヴィス。

障害のあるバリスタや焙煎士が活躍

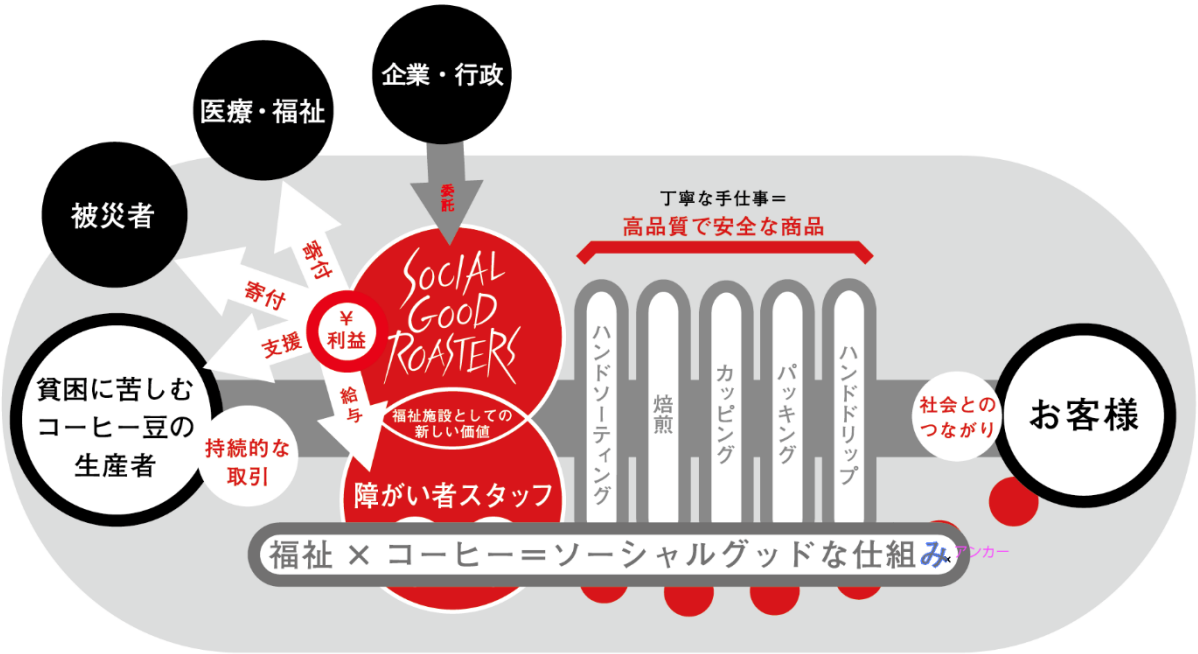
障害者が社会と対等な関係に

ソーシャルグッドロースターズは、コーヒーの売り上げから利益をもらわない完全非営利の施設です。売上から仕入れ原価、運営経費を除いた利益は全て、支援や寄付へと運用しています。

支援される側だと思われている障害者が、支援する立場となることで、社会との対等な関係を築いており、良いことの循環モデルを実現しています。
訪れるお客さまは、コーヒーを購入することで、多様性から生み出される価値を体験するだけでなく、気軽に社会貢献へ参加することができます。

コーヒー豆の取引も社会貢献活動のひとつとして、支援を必要とするコーヒー豆の生産者と継続的なフェアトレードを続けています。
生産者の得た利益は農園の設備、現地の学校や病院建設などへ充てられ、生産地域の発展に貢献しています。
最近では、コーヒーの売り上げを運用してコロナ禍で働く医療従事者へコーヒーを、福祉施設へはマスクを届けたりと、生まれる利益が社会に循環するモデルをつくっています。

←コーヒー豆農園の様子



ソーシャルグッドロースターズの仕組み

■施設運営の収入源
・地域行政からの委託費：障害者の就労訓練
・企業からの委託費：雇用する障害者のマネジメント
■売り上げの使い道
・障害者スタッフの給与
・貧困国の生産者への還元（継続的なフェアトレード）
・医療福祉施設や被災地支援への寄付

障害者雇用における社会課題への取り組み

ソーシャルグッドロースターズでは、障害者雇用の抱える課題に取り組んでいます。
厚生労働省が刊行している「障がい者白書」によると、障害者の1年以内の離職率は50%を超えており、この数字は 10 年間改善されていません。
障害を持っていると職種の選択肢が少なく、自発的に「やってみたい」「やりがいがある」と思える仕事に就くことが難しい、という事実があり、仕事に就いたとしても「賃金・労働条件への不満」、「能力に応じた評価がない」、「能力が発揮できる仕事への配慮がない」などの離職理由で定着率を維持できていないという問題があります。
こうした課題の解決に取り組むために、障害者の就労先を拡大する実証実験として、2018 年に一般社団法人ビーンズは東京都千代田区と協同で、「ソーシャルグッドロースターズ」1号店を神保町に設立しました。
挑戦してみたいと希望する人の多いバリスタや焙煎士の仕事を通して、垣根無く共に働き、一人一人が自信と誇りをもって働き成長できる機会の提供と、ダイバーシティ体験ができる場所づくりを目指しています。
2021 年現在、30 名超の障害者スタッフが勤務し、退職率は 5%未満を維持しています。

一人ひとりの個性に合わせたキャリアプラン策定

ソーシャルグッドロースターズの職務役割はコンピテンシー(職務や役割において優秀な成果を発揮する行動特性)と業務で期待される貢献で定義されており、一人ひとりの個性を活かした能動的な取り組みを促す成長プログラムで編成されています。
スタッフの能力や特性に合わせた業務から仕事をスタートし、将来の希望に合わせて支援計画を立てています。
バリスタや焙煎士などコーヒーの専門技術を持った指導員と、さまざまな福祉サーヴィスに従事してきた経験豊富な支援員が在籍しており、それぞれの視点から一人ひとりの成長をサポートしています。

職務コンセプト	職務役割名	勤務区分
支援できる	ライフコーチ／支援員 (Life Coach)	正職員
育成できる	バリスタコーチ／指導員 (Barista Coach)	正職員
教えられる	コーヒーアドバイザー (Coffee Advisor)	非常勤職員
コーヒーの専門家になる	コーヒースペシャリスト (Coffee Specialist)	非常勤職員
フォローできる／手本になる	オーナーアドバンスト (Owner Advanced)	支援サービス利用者
自分でやれる	オーナーベーシック (Owner Basic)	支援サービス利用者
仕事の基本を身につける	ラーナー (Learner)	支援サービス利用者
働く土台を身につける	トレーニー (Trainee)	支援サービス利用者

ソーシャルグッドロースターズの職務役割

そして、少しずつ任せする仕事の範囲を拡大していき、いずれはコーヒーの製造・提供・販売に関する全ての業務をこなせるようになることを目指します。

専門性とスキルが要求される業務内容

ソーシャルグッドロースターズは福祉施設とはいえ、専門性の高いスキルを身につけること、クオリティの高いアウトプットが求められています。

ソーシャルグッドロースターズの主な業務内容

一般社会と福祉の世界をシームレスに繋ぐ商品や空間

障害者が誇りを持って働ける場所づくりのために、機能は担保しながらも「障害者雇用」を意識し過ぎず、福祉とは関わりのない一般の人達も「行ってみたい」と思うような空間づくりを意識しています。

制服にも同じ想いをこめて、使いやすく、かっこよく、長く使うことを考慮しました。

また、商品もコーヒーのクオリティだけでなく、パッケージにまで洗練されたデザインを追求することで、「福祉施設でつくられた商品」というイメージを払拭しています。

このように、洗練された空間が社会と福祉施設をシームレスに繋ぎ、多様な人々との接点や交流が生まれ、多様性が生み出す価値をより多くの人へ伝えていきます。

洗練されたデザインの空間（上写真）
と商品パッケージ（右写真）

美味しさと安全性を追求したコーヒー

ソーシャルグッドロースターズのコーヒーは、複数の豆を組み合わせ、それぞれの豆が持つ個性を引き出すことで多様な味づくりができる“ブレンド”という手法を選択し、多様な個性がともに働く福祉施設としての理念を体現しています。

工程のひとつひとつにも、福祉施設だからこそ可能な作業を取り入れて、他では味わうことのできないコーヒーを提供しています。

例えば、「ハンドソーティング」では、形や大きさが不揃いな豆や、青カビが付着した豆を徹底的に取り除くことで、安全性が高く、雑味のないクリアな味わいを生み出しています。
この作業を行うほど人手や時間もかかり、欠点豆を取り除くほど原価も上がってしまうため、「ハンドソーティング」の徹底は非営利で運営し、スタッフの多い福祉施設だからこそ実現できる作業といえるでしょう。
生豆の取り扱いから商品を提供するまで、全てのプロセスに全てのスタッフが関わることができるよう、ソーシャルグッドロースターズには製造工程にも工夫があります。
その工夫とスタッフの努力により、唯一無二のコーヒーがつくられ、お客様に届けられているです。
※ソーシャルグッドロースターズの詳細はこちらをご覧ください。

在宅で好きな時に UD 資格習得
UD 検定オンライン 第 25 回初級及び第 15 回中級開催のご案内

中級受験に必須の
公式テキストブック

IAUD は「第 25 回 UD 検定・初級」及び「第 15 回 UD 検定・中級」をオンラインで開催します。
「UD 検定・初級」は、UD に関する基礎的な知識を学習する講習と力試し問題、検定試験（30 分・50 問）のセットです。問題は全て受講した講習内容から出題されます。
「UD 検定・中級」は、力試し問題と UD 検定・中級試験（70 分・129 問）を受けていただきます。試験問題は、公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」に準拠して出題されます。受験される方は事前に公式テキストブックをご購入し、ご自身で学習された後に試験をお受けください。
「第 25 回 UD 検定・初級」の申し込み受付は**4 月 15 日（金）から 5 月 18 日（水）**まで、「第 15 回 UD 検定・中級」の申し込み受付は **4 月 20 日（水）**までです。
初級、中級とも合否は検定試験終了後すぐに判定され、合格者には認定証を発行します。この機会に是非、ご参加ください。
※「第 15 回 UD 検定・中級」詳細・申し込みはこちらをご覧ください。
※「第 25 回 UD 検定・初級」詳細・申し込みは近日中に IAUD サイトに公開します。
※「オンライン第 1 回 UD 検定・初級」開催を掲載した Newsletter はこちらをご覧ください。
※「オンライン第 1 回 UD 検定・中級」開催を掲載した Newsletter はこちらをご覧ください。

IAUD 2022年4月の予定

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15 第25回 UD 検定 初級受付開始	16	17
18 春分の日	19	20 第15回UD検定 中級受付終了	21 14:50～ 衣の UDPJ オンライン会合	22	23	24
25	26	27	28	29 昭和の日	30	

次号は5月上旬発行予定
特集:IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介③ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
事務局:〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
電話:045-901-8420 FAX:045-901-8417 e-mail:info@iaud.net